

資料 3

報道発表資料
平成24年6月26日
気 象 庁

第123回火山噴火予知連絡会
霧島山（新燃岳）の火山活動に関する検討結果

新燃岳の北西地下深くのマグマだまりへの深部からのマグマの供給は停止し、新燃岳浅部の活動も低下しています。しかし、現在でも火口には高温の溶岩が溜まっており、小規模な噴火が発生する可能性は否定できません。

霧島山（新燃岳）では、昨年9月7日の噴火以降、噴火は発生していません。

新燃岳直下の火山性地震は今年3月頃から減少しており、5月以降は昨年の噴火前とほぼ同程度になっています。1日あたりの二酸化硫黄の放出量は、300トン未満と少ない状態で経過しています。

GPS観測によると、新燃岳の北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張は、昨年12月以降鈍化・停滞しています。他の領域の地殻変動データにも特段の変化は認められていません。新燃岳周辺の地震活動には、顕著な変化は認められません。

以上のように、マグマだまりへの深部からのマグマの供給は停止し、新燃岳浅部の活動も低下していると推定されます。しかし、火口には高温の溶岩が溜まっており、現在でも小規模な噴火が発生する可能性は否定できません。

また、今後、マグマの供給が再開すれば、昨年1月下旬から2月上旬の本格的な噴火の規模に匹敵または上回る新たな噴火活動の可能性はあります。

引き続き、新燃岳火口周辺では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。噴火時には、風下側で火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

気象台の発表する噴火警報や霧島山上空の風情報に留意してください。

降雨時には泥流や土石流に警戒が必要です。降雨に関する情報に留意してください。